

米国の姉妹校に英語で学校の様子を説明しよう

(中学校第1学年 外国語)



一人一台端末活用のねらい

- ・タブレットドリルを活用して、知識の習得を目指す。

授業のねらい

・CAN-DOリスト

- 「読む」身近な話題（自己紹介、家族、趣味、部活動、日常生活など）についての短い話や対話文を読んで、主な内容を読み取ることができる。
- 「話す〔発表〕」身近な話題について、質問したり答えたりできる。
- 「話す〔やり取り〕」身近な事柄について、視覚情報を効果的に活用して、即興で話すことができる。
- 「聞く」身近な話題についてははっきりと話された話を聞いて、主な内容を聞き取ることができる。
- 「書く」関心のある事柄について、簡単な語句や表現を使って正しい語順で文章を書くことができる。

・本時の目標

アメリカの姉妹校に、学校の様子を伝えるために、実況レポートをすることができる。

10時間（本時2/10時間）

導入	展開	まとめ
<p>①あいさつ ②電子黒板に提示された静止画について、英語で説明する。</p>	<p>③動画を示し、形に気づかせる。 ペアでさらに練習させる。 ④個別に教師のチェックを受けさせる。 ⑤チェックが終わった生徒には 一人一台端末を活用して練習問題を解かせる。 ⑥写真や動画を示し、文を書かせる。</p>	<p>⑦学習計画表に振り返りを記入させる。</p>

活用ポイント
【個別最適な学び】

詳細はICT活用教育「プロジェクトE」サイトまで
<https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/list01913.html>



米国の姉妹校に英語で学校の様子を説明しよう

導入



③

文構造のポイントを含む文を電子黒板に提示して、形に気付かせます。



展開



文構造のポイントをどの程度理解しているのか、生徒一人一人に発表させ、中間評価を実施します。(10分間程度で実施可能)

個別チェックが終わった生徒から、個別最適な学びを行うことが可能です。



⑤



⑤

生徒一人一人が、異なる問題に挑戦しています。

まとめ



⑥

文構造を理解することができたか、主体的に学習に取り組むことができたか、本時の振り返りを行います。

タブレットドリルの問題を確認することで、本時のポイントを確認しながら英作文することができます。

小・中・高を通じた英語教育強化推進委員であり、武雄中学校に勤務の竹内利沙教諭の実践です。新学習指導要領で示されている「中間評価」をクラスの生徒全員を対象に実施する一方、中間評価を受けた生徒には一人一台端末を活用した個別最適化の学びを進めさせることで、知識の定着を図ります。生徒の英語運用能力の中間評価を受けた生徒が一人一台端末を活用したドリル学習をすることで授業にメリハリができるうえ、知識の定着を期待することができます。